



瓜  
下  
一  
冊



利12
2/85
28





もろをきせ

一うのれやとて 夜なせし海津屋

よありのう方喜言々を南に大書元一回あり

一世人よの人の文字をたてりし本は後うき院の法諱

世仁<sup>ヨクナ</sup>トロに世あつたて 一うきをこころいへばこかきざり

更衣<sup>ヨクナ</sup>よぬらふもの世もあつたて 一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

あつた人のやうにきせ

一世のこころいへばこかきざり

あつた人のやうにきせ

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり

一うきをこころいへばこかきざり



一甲まらんとあてふの御抄に侍国じろの郡神  
 多しのさねねとよま若の原はとらよ。田面八  
 町の内を芝檀蘆芳々らひひびくこととよまを  
 伐木してそを飛瑠璃車梨馬瑠璃の御名を他  
 ことなれて車陣のこに春山。南の陣のこよま  
 多のこも。西の陣のこよハ松の林。少ハ松の林。田面  
 とあたらうらうらうところこいびまを模とらうら  
 一世のこいの後れとよま。後の文をたをとくとよまのこ  
 一うらひく弄のこらうらうら。うらひひもま玉うらうら。後三  
 位一うらうら。

執政人平賀例古堀河の御抄とらうら。志田里が  
 九条の家とらうら。素平松雲の命を詠

一うらうはの。朱雀院の御抄。変とたり。よハあり。  
 一のけひもる。よま。院とらうら。御抄也

一せ休むは。世にうらなほ。世のうらうら。のこ也。  
 一のうら。野とらうら。うらうら。のこ也。蓮の  
 の玉。然ある人とのこ也。一うらうら。うら。号と  
 信とらうら。小見。女もむ。のじ。うら。うら。女。婦。未  
 人。公。夜。号。不。頂。説。け。ん。や  
 一のうら。の。御抄。うら。うら。よ。ま。うら。うら。の。御抄。也

晴  
 土をちかきわらふるも也。海鬼をうきぬるありと尺草  
 しく遊むとより。多の用をいじりてひらきとす  
 かる也。それともあるこ。一うらとる。蕪花水暗螢  
 知夜 朗詠 螢の光をきくはひきかき別れ也。海のさき  
 ひらきとす也。 一うらとるハ 槁木 葉枝  
 ちかしくわらふるも也。  
一世のうらとるハ ちかしくわらふるも也  
一ものり也 今泉法にうらとるも ちかしくわらふるも也  
一うらとるの後のちかしくわらふるも也  
一世はたりとるハ ちかしくわらふるも也

一ものり也 贈 倭のちかしくわらふるも也。贈 ちかしくわらふるも也  
一うらとる也 贈 ちかしくわらふるも也  
 のちかしくわらふるも也。一うらとるも ちかしくわらふるも也。又夢  
一うらとる也 贈 ちかしくわらふるも也  
 求四虚上下東極 天海 陸蓬壺 見宮高  
 仙山 多樓閣 西廂下 有洞 東嶺 西其門 署  
 曰玉妃太真院 長根哥傳  
一うらとる也 贈 ちかしくわらふるも也

た

一玉のちかしくわらふるも也。玉のちかしくわらふるも也。玉のちかしくわらふるも也  
 一たのちかしくわらふるも也。一たのちかしくわらふるも也。一たのちかしくわらふるも也

一たぐさき 新堪

一たぐさき 遠くへと回

一たぐさき さらり 新堪 幻術士もあ也。玉のありくと  
ハ更長の鬼塚をまじり 一木液の葉末央柳 見長  
大波の池の色。芙蓉の蓮の葉也。末央ハ玉の葉。連  
花柳。楊妻也。ゆめとく

一たぐさき のちとれ 葉中ハ大波子やとて三机  
とてそく内膳もゆめ也。是ハ常にまじり傳也。お  
ものハ内膳もゆめ也

一たぐさき 退く女 一たぐさき 五標  
一たぐさき 後改用白とと帝代はふり

一人のめ也 親王の分限よりとゆらり流と也

一たぐさき 便 一たぐさき 終也。ふり終

一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき  
一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき  
一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき

一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき  
一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき

一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき  
一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき 一たぐさき

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 濠口 ありりの子れ 禁中にて 濠口の宿に 武家よりともあせしむじハ申也 武家下りともあせしむじハ申也 武家下りともあせしむじハ申也 武家下りともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也 一 大いさす ともあせしむじハ申也 一 大いさす ともあせしむじハ申也 一 大いさす ともあせしむじハ申也 一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也

一 大いさす ともあせしむじハ申也



先中一徳忠孝作獻題  
 遊書勅字盛中境置庭中文其堂上近衛次將  
 先撰神料約于字置苔蓋昇自佛前階  
 獻之次玉瑯堪屬文者文人亦各進文其室歌探  
 正の自之奏官姓名及外探字也今案探韵  
 各一字詩也悉韵字のり也故懐紙強ゆ  
 春日同賦春夜歌極花各分一字應重詩  
 撰得如此書へ也 一太將の志 太將の系係  
 其字の如相も系なる儀也源氏はひの系議大  
 將也宰相系木將例藤原房前冬調云常行

系係改 一太將の志と行くまらる  
 系係二人の内一人であらう也 花略之  
 一太將の志をもほして後奏之の志はひくくは息志  
 とは乃が喜うとせしめらるると又此の志はひく  
 りとせしめられし也 一たさくは強らるれは  
 一たさくは弱と 採莉及菓蔬隨時恭敬與 堤安  
 一たさくは弱と 函り也 一たさくは弱と 再  
 天回坐坐雲格露唯是西行月不速落  
 一たさくは弱と 五祭三間新草下堂石階松柱行  
 編牆白氏 一たさくのくちど 彈基



酒神と祀されぬ也。心ふどとぬとぬべし  
一塔にふらふら金を蓄女貞女ありてらてあはれ  
人のくさひとまきそ塔の壁とふらて焼あうと  
りともありてらふらたらともあり。河顔叔子かゆ  
とらと花うらの中納言物後まき。下らふの也并  
畢竟志ほらら女の中かへ  
一竹とり地流也梅堂也一流及大光寺まきとぬ  
と也貞觀十八年二月廿五日に焼滅院為木ま  
棲龍寺まきと流あり下らふ川ゆひ榊うら  
の勢とま一説は玉平袍とて玉とららてら也

女子の帯とまき 一たぐのとも西三系大屋  
良相公の雨院た片原冬嗣公のま也。た片  
の息太まきとまきと習はまの例也  
大将内た片まきありまき。内た片執政例流川  
開白忠義天禄三十月廿七日内覧同十一月廿七  
日暨例ありまき。一辰の日まきつら流りま  
十月丑日らり流まき。丑二五日下の也也。他一の  
丑まき有例九五日八舞妓入寅日たまき。此  
まき外日童女流辰日八又節の流りまき。節會  
の日也。辰乃日のまきつらとまき。不審也。豊明





ことひ終るる銀ちりて文も四つ人かきと也

一たぐひれあそんひもろこの奇と清輔の家書

一終文時ありてなるはあのもあてとて

一たぐひ大曲也 一立をひてん我と也

一たぐひとあられは木はははるるを煙る。其

とをよひてとんと也。それと煙るるをよみ

浴也 一たぐひか 菊也

一たぐひとらとんぶん 撰海和抄新及菓蒔隨

時恭敬子新とんとてはてはる人の悦まし。五

巻目抄のよひとて。り隨を

一たぐひとら 標菓級水 撰新 飲食 干時

奉事 經抄子歳子歳 経るの如きはり

かゝるて死に也。りて。りて。後の

と也 一たぐひとらとんぶん

力とらひとらとんぶん 入減られた。常在 冥誓

山のなをあり死我生も 見はらむ世 恒て 源妙

典花らるる果とハ別てふとありし也

一玉とあつの源の理のつとにまゝと也

一竹川の竹は入曲とらとんぶんとて

竹は入曲とらとんぶんとて

ありふくまらり

一併に結尾にせり

くぬきひりしとぞめあざむくちあめりしとぞめり

清くんと早下りや 一たのむらん 煮出家あ

らバ。愛もふらんとよあひしと也

一たのむ 多岐なる基 祇令水 桶沼推と云

一椽のやどり 晨鷄并 残月 没心馬 連断

行人出 白氏文集 一たのむ 木の青ハ流す

ておぼがふふ 林守ま也 各群ハ亭に

南階 さくりて 凶札あるに 揖讓の作法也

新大納言 の辨をよ。其ハ東階句は直衣下

縁のうら しきれ

一丈夫 がらやれ 大まかりと

一たのむ 也がうハ件也 一内記式ハ神画より

一たのむ のふりしきましき寸ととありふと

梵天帝 紀人あといふところ天也。帝スハ物

利天 の正也 一椽の櫓のまわらり

一たのむ ちんべいともありじうと也 羽ふと

一椽 のまわらり 椽のまわらり

一たのむ ちんべいともありじうと也 羽ふと

一たのむ ちんべいともありじうと也 羽ふと

てりり

一玉よき守 珙 毛結

一たちとて 親らば中とて 親後とて 地とて

礼記式 殯入 棺とて 人とて 玉也 殯後 中て

蘊生 一とて 中とて 中とて 中とて 中とて

ひととて 地とて のとて ひととて 中とて

一たよの 行とて 中とて 中とて 中とて 中とて

れ

一とて 中とて 中とて のとて 中とて

一とて のとて 中とて 中とて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて

一とて 中とて 中とて のとて 中とて 中とて





一 ちりとも也

一 ちりともあつちりとも

一 馬の音ありしと

一 馬の音ありしと

一 うちはうそことなる也

一 うちはあけえそことなる也

一 うちはあつちりとも也

一 うちはあつちりとも也

一 うちはあつちりとも也

一 うちはあつちりとも也

一 うちはあつちりとも也

一 うちも 袖也

一 ちりとも 源也

一 ちりとも也

一 ちりとも 源也

一 源のちりとも也

一 袖のちりとも也

一 ちりともあつちりとも也

一 ちりともあつちりとも也

一 袖のちりとも也

一 ちりともあつちりとも也

一 ちりともあつちりとも也

一 ちりともあつちりとも也

源氏物語

七



一 云々 一 流ひやき源の源り  
ては世せしめぬやとけりか  
一 凡人命を寛平速誠云々今須公之仲令  
實二人臨陣其子必令求眞けおとさめられ  
ととび即はまのりしとあり上下略之

一 云々の存るべし 法清本衛のそけい下とあり  
懐光河原集今曰柱石の一人堂湖習  
太政官多八仁徳天皇之内宮高藤よりける  
初御知と法と也 一 梅え  
我れもり本明天皇侍從後醍醐天皇の侍臣

子と云利を 黒龍二方 一 奇のうは 新れ何  
ふとらしてとあり。故而た文の。雲科及の  
一 今はぬゆららぬゆり  
一 じとや 本食の時と念と云ふ云々  
別てとら得ては。唐の通爵齒の之内。一  
とらる者といふ 一 かくかくのふ、外典と

樂書曰。竹之發易。寒暑發之。感動風  
雷。謂琴也。琴書云。作。曠。晉之樂官  
也。工。琴。能。易。寒。暑。點。佩。南。為。晉。平。公

誠之愿志願下 辨つ 一々とてあつてもあつて

一々のころあつてもあつても

一々のころ 雨の流す方也 一々れとてあつても 弄

本細公三 三位 任 陸奥 出羽 按察 使 兼 行 近

海 犬 将 友 原 兼 房 保 忠 兼 平 六 年 七 月 十 四 日

薨 四 十 七 号 八 條 犬 将 時 平 二 男 中 羽 周 坐

の 元 孫 保 忠 比 物 流 又 時 代 ち ぐ 々 れ を ば へ せ

と せ せ ぬ ぬ ぐ 々 ち ぐ 々 ち ぐ 々 ち ぐ 々 ち ぐ 々 ち ぐ 々 ち ぐ 々

一々のころあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

一々のころあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

世の如華遠の夜に車れちり又院あゆむはげも

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

一々のころあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

一 されども...  
 一 盗賊 財物...  
 一 中... 楚王...  
 一 後...  
 一 病...  
 一 袖...

一 玉...  
 一 天運...  
 一 面...

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

二つと 集 日本記

一 寺中にもね 多やまはもとて下より

一 秋除目也号 秋除目也号

一 京官除自春除旨者号 縣各拜任之

一 白髪春者右取官 廢杖者控外記 廢而作之

一 仍稱官曰 敬隆 拜八月也 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 禁中ねるあわす中まのいあぐり 多し 柳利天

一 上ちどねらば せげ 昔のやと ばままのいあぐり

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六

一 一月のまじ 去いあぐり 杖六



一 食家津掃地東坡詩もろ  
 二 つええれとととろへる法煩費  
 三 つくもぬの甲斐も根根う山  
 四 風まよとけ常陸れが常陸も  
 五 一常陸のりも常陸常期  
 六 不審不審のふも能書也  
 七 一不審のりも不審常期  
 八 一不審のりも不審常期  
 九 一不審のりも不審常期  
 十 一不審のりも不審常期

一 一不審のりも不審常期  
 二 一不審のりも不審常期  
 三 一不審のりも不審常期  
 四 一不審のりも不審常期  
 五 一不審のりも不審常期  
 六 一不審のりも不審常期  
 七 一不審のりも不審常期  
 八 一不審のりも不審常期  
 九 一不審のりも不審常期  
 十 一不審のりも不審常期

つら餅也

也大敵也

つらやぐら

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

つらき

徐君好季コノトシ礼劔カノヲ口弗敢言コトヲシテ季礼心知之コトヲシテ為使コトヲシテ  
国未獻還コトヲシテ至徐徐君已死コトヲシテ於是乃解其宝劔コトヲシテ  
殺之コトヲシテ徐君家樹而去コトヲシテ後者曰徐君已死コトヲシテ尚  
誰予年季礼曰コトヲシテ君礼我心已许之コトヲシテ豈以死コトヲシテ  
倍吾心乎コトヲシテ吳世家コトヲシテ 一コトヲシテ コトヲシテ

一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也

一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也

一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也

一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也

一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也  
一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也

一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也 一 季礼也

けいせいのしじや 一ねい通流りあまたの中

あとのや 一ねいさそ 真のこころ

のう海也 一ねいさそ 真のこころ

みひささそ 真のこころ

こころとのまゝり 真のこころ

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

一ねい人 年たうらう人 一ねい人 年たうらう人

三十一

さへ後。系極のもをもて。あはれけり。けり。え。良の  
こけ。新。知。一。ね。ち。け。り。ま。ま。こ。の。こ。え。

若。ま。の。り。来。お。と。成。の。路。に。勝。る。後。ろ。ろ。へ。し  
ね。ち。り。り。ら。も。に。さ。ら。ま。の。さ。ん。也。さ。お。の。ろ。よ。つ。き  
て。い。い。の。の。智。の。ろ。へ。さ。ん。也。弄。ね。ち。り。り。ら。ま。ま。ろ  
ら。あ。い。し。と。解。し。と。い。ひ。ろ。ろ。と。い。ふ。也。と。お。け。と。と。さ。れ  
し。と。也。一。ね。ん。け。ろ。と。万。万。の。家。生。

此。捨。離。專。心。殺。願。向。西。五。

一。ね。の。こ。と。解。子。の。矢。の。聖。也。と。い。ふ。依。て。ま。の。の。ろ  
解。と。惟。也。と。い。ひ。視。と。子。の。と。と。云。は。あ。ろ。ろ。

かよ

一。か。ろ。ろ。の。こ。の。柔。也。や。ろ。ろ。と。也。成。ら。ろ。ろ。の。ろ。ろ。也。  
他。ち。ろ。ろ。い。し。解。字。也。一。か。ろ。ろ。の。ろ。ろ。平。也。

一。内。侍。の。ま。の。典。侍。尚。侍。掌。侍。命。也。と。い。ふ。ま。の。ま。

一。よ。ほ。ま。ろ。ろ。と。い。ふ。二。か。ろ。ろ。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

一。人。佛。美。也。の。ま。ま。と。い。ふ。も。か。し。の。既。は。ま。ま。也。と。い。ひ。

一。て。ん。ご。と。い。ふ。と。い。ふ。も。か。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

一。さ。い。ど。ろ。と。い。ふ。と。い。ふ。も。か。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

一。中。と。い。ふ。と。い。ふ。も。か。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

一。な。ま。の。ろ。ろ。と。い。ふ。寂。媚。生。花。と。い。ふ。も。か。し。の。ま。ま。の。ま。ま。



神代卷

三十一

一 ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちまびやう ちまびやうちまもるん也 一 ちまひんごもるん 媚心メココロ

一 ちりしひ 農かつら母一ををたすらひ 金剛

一 蔵王権現 志ま又迦現 在觀音 當來彌勒也 弥勒出世の時地よまてくへき今をぬりり給也

一 ちみぎの院 せんじやうをこもどつらんで何と 院のとも也 一 ちみぎえん 花野可也

一 内聖時のやこを幾とそめちり信長のみまめ ちりちり名得とらふ。あまのあせら信長よふま

一 名とこまけてちりちり也。び次は信長にあり ありこもて 一 南女のとも也。絶交。新

一 信のとも。武徳の松原也。真信のともり信 時書の時ころのあて。な力をかていそじ。物信

一 ちりちりのあかちりちり也。ちみぎのちり ちりちりちりちり也 一 ちみぎのちりちり也

一 等閑念はるちりちり也。ちりちり也 一 ちりちり也 弥勒の世とちりちり也。ちりちり

一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也 一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也

一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也 一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也

一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也 一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也

一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也 一 ちりちりの世とちりちり也。ちりちり也





かきつりや

一七世紀のころ、

ひるがのころ也。天武天皇十年正月七日御

白少原<sup>エニ</sup> 一<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>

十二月海白<sup>カ</sup>除<sup>カ</sup>免<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>進<sup>カ</sup>奉<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>鬼<sup>カ</sup>ヤ<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>

こま<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>字<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>字<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>

や<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>始<sup>カ</sup>自<sup>カ</sup>禁<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>進<sup>カ</sup>諸<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>み<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup> 昔<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>玉<sup>カ</sup>羊<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>エ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ツ<sup>カ</sup>タ<sup>カ</sup>ケ<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>玉<sup>カ</sup>羊<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>内<sup>カ</sup>え<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>三<sup>カ</sup>三<sup>カ</sup>月<sup>カ</sup>

中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>清<sup>カ</sup>涼<sup>カ</sup>夜<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>主<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>并<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>執<sup>カ</sup>柄<sup>カ</sup>未<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>之<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>保<sup>カ</sup>え<sup>カ</sup>信<sup>カ</sup>西<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>行<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>八<sup>カ</sup>終<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>十<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>結<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>用<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>是<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>より<sup>カ</sup>七<sup>カ</sup>まで<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>儀<sup>カ</sup>八<sup>カ</sup>九<sup>カ</sup>十<sup>カ</sup>迄<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>結<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>好<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>院<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>より<sup>カ</sup>四<sup>カ</sup>守<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>

一<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>侍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>



五方葉舟を本舟とててふもあなづい御安  
えくられ  
一内太極よりちり給ぬ花

大細云敷内とまるそ。正はちり給らんあちこそ。  
指ら内太極はあなづい御安とて大細云敷  
内太極をひらけり也。そまよやぞて板政志候  
正定あれども。そまよけり候はんとて致仕  
大内とちり給也。弄政志候より一節敷は。  
左右の太極の也。後云爾左右の介子。内太極  
の能をせり候也。一なるれとらり内門后  
はあり候。中れとらり候。そまよたは太極のれ

とてあは太極左太極ももあなづい御安

たふふの内太極人 花代候は八十倍条八折候  
そまよ典侍り人内太極ももあなづい御安とて解

除するももあなづい御安折候のそまよ介子也

七折 七折のそまよ介子の世にともあなづい御安也

とてあは七折。そまよの七折とらり在之。京中又

あなづい御安とらり候。これ花代候はあなづい御安

飛鳥 飛波志候 鈴麻は候也

七折候とらり候。弄政志候のれのももあなづい御安  
日ちとらり候。人ともあなづい御安

あつてせのあつれ せつはむらうらふひ終ても野

女のうらさきと秋院はあつれとらふひ

るゆのうらさきとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

あつれとらふひ

るまゝよりいづる唇表也。結ハ為長黄ハ河津

りるお通也。一カ登しとあれもとも

らふらふぬ件也。一夏の月ちまひは細

夏のうちとゆいれが杖とひ杖の中とあつた

い夏らふらふ也。一ちこてゆふもま也

一ちかちか長年也。長か短かのちまひは

柄よまのちまひを二十とせしむと短かとも

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

官之。箱はよ女官の内侍のちまひも

ちまひ也。一ちかちか長年也。長か短かのちまひは

まのちまひを二十とせしむと短かとも

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

内侍のちまひはまづ入。まのちまひも内侍の

一 養上 此のよき事あるをくちかぬゆへにさうじょう編み  
とあつたふり及ぶる也

一 内親王 并 向云 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 子 此の心算 衛鼓もいふる也 又 天のつこ也  
人の末能く不遇なるちりもいふ也

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

一 一たつちを 此の心算 女はもと親を室下まで下り  
まや一助合點

左やうもん ちん ちん ちん ちん

竹川 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

一 ちん ちん ちん

一 ちん ちん ちん

南に下内今

史記 中やうと守

史記 中やうと守

孝惠帝崩 太后哭泣 不坐 呂后本記

たふふの念仏 不念 念仏 ちん ちん

たふふの念仏 不念 念仏 ちん ちん

行をそは生滅法 生滅 已寂滅 為来 雲山

童子求法 秋 丹 削 ちん ちん 全 然 ちん ちん ちん ちん

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守

史記 中やうと守



一 之也 善中にまゝなまをうごかぬ

一 かねてまゝに 武蔵の山にまゝのた おかたがね  
まゝなりそまびつちまゝなりまゝなり

一 ちかもまゝに 二十ヶ日 襪は解け也

一 中ふひつて 大庭四時心懸 苦行中 脇断是杖天

白氏文集  
一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに  
梅仙家より 其れとひくとまゝにまゝに

一 かねてまゝに 傍に 懐心院 源信信行 は 以 い たり

一 かねてまゝに 法礼經 仏之 格後 起 おこ せり  
源氏八甲巻第四

ら

一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに

一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに

一 かねてまゝに 羅衣紙也 一 まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに

一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに

一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに

一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに

一 かねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに まゝに ねてまゝに





也。まらひのよきかきし。うらまひのよきかきし。うらまひのよきかきし。

一梅の花をよみよとみよ。あはれよ。あはれよ。あはれよ。

来子やま。目よ。みよ。あはれよ。あはれよ。あはれよ。

各をよ。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。

梅の葉のよき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。

らね。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

一 惟一者冠多矣卷綴 賦者ハ五文の羅と用也

一 びくひく 當殿也 一 びくんの所をさす

一 今保氏を友位人也仍也

一 心やれむにんく 河 菅原相之の外

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一 心く 今より後多る時より後の心石のむきを

一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
はるあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
けいこうのあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
はるのあはれなるもいふはむらさきのあはれなる

一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
日本記 日本武尊 東夷をとりし時 雲をたふさ  
くるといふもあはれなるもいふはむらさきのあはれなる

一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
父のあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
後撰 大納言 国造 藤原の家はけけり

一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる

一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる  
一むうしあはれなるもいふはむらさきのあはれなる

天智の帝其例とありてあむりて院母ちとて  
建つるをともせしむ一むりてはのぞく慶雲  
天皇とて天下に瑞を瑞とてゆりて也

一むりともやちるるにひは是は詔天皇の女  
は多ううりてとてひて忠仁を尊より結  
るるとり

一むりの上も忠仁の尊  
とせればたよ也とて上皇のつるんをすれば又  
院の聲のありうひりてつる也

一むりともうりて地をせしむとてたせしむす  
院もとて内海を切絶を施入せしむるを

一むりの世もと 年表あり

一むりともうりて地をせしむとてたせしむす  
人の内湯まうりて後内む久湯まは定よりる也  
とて明石の上まうりてつる也

一むりともうりて馬をひは南時中宮の君とて  
一むりともうりてあつちとちむりて 永書とて琴の  
動天地感鬼神とて一むりともうりて女房 云心

一むりともうりてやハ内務地治よ業平力  
二葉后とてあつちとちむりてつる也

一むりともうりてあつちとちむりてつる也

一 無言の子 無言の子 波羅刹主之太子  
子。名。休。魄。容。澤。正。生。而。十。三。年。不。言。

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく

一 びまひとく とく びまひとく とく びまひとく とく







不義也

海嶼

一うづつ海の色也何

一うづつ人の心はうづつを

もるのうづつを又あはれまもるはあはれうづつを也

母のうづつはうづつ也又母の終りやうづつを也

一うづつく 終りたるをうづつ人か他人也

一うづつく うづつ也又うづつをうづつからうづつは

あべー 一うづつたるはうづつを也

海やうづつをうづつ也

一うづつく 海をうづつはうづつをうづつ也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

一うづつく 海也

也倍ツツすういじちちりよは同じくも

うらりうらりツツタガと源氏との夜とタガま

りツツまツツとツツ色ツツ 一たさハタガかぬめのツツ花

也ツツ母ツツとツツちツツちツツなる也ツツ一ツツちツツまツツのツツ世ツツむツツるツツ一ツツ世ツツと

うツツらツツはツツのツツ優ツツ曇ツツ花ツツはツツひツツらツツぬツツらツツまツツらツツ

うツツらツツすツツるツツらツツまツツらツツ 尼ツツ惹ツツちツツれツツばツツくツツもツツけツツくツツらツツぬ

さツツぬツツらツツりツツ 一ツツ人ツツをツツばツツらツツよツツ 久ツツハツツ尼

うツツらツツひツツめツツるツツ御ツツ也ツツ一ツツちツツまツツ 御ツツ大ツツ小ツツありツツ御

まツツのツツ人ツツ或ツツはツツあツツらツツいツツちツツどツツのツツいツツるツツ物ツツ也ツツまツツぬツツのツツ上ツツにツツ表

表ツツすツツよツツ小ツツ御ツツとツツるツツすツツけツツハツツ波ツツをツツぬツツらツツへツツまツツらツツん

とツツりツツとツツ也ツツ 一ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 咄ツツ明ツツし

のツツちツツりツツとツツ也ツツ 一ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 源ツツ氏

けツツらツツとツツまツツらツツがツツらツツらツツ一ツツとツツりツツとツツ也ツツ

とツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 海ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 一ツツとツツりツツとツツ也ツツ

とツツりツツとツツ也ツツ びツツんツツとツツらツツぬツツらツツ也ツツ

とツツぬツツ女ツツ孫ツツ人ツツ花ツツ宋ツツ女ツツ孫ツツ人ツツとツツらツツぬツツらツツ也ツツ

女ツツ孫ツツ人ツツのツツ宋ツツ女ツツのツツもツツあツツらツツぬツツらツツ女ツツ孫ツツ也ツツ

とツツんツツとツツらツツんツツ 花ツツ是ツツハツツ中ツツにツツ花ツツをツツ花ツツはツツ字ツツはツツあツツるツツ也ツツ

花ツツ侍ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 一ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 現ツツ心ツツ也ツツ

とツツりツツとツツ也ツツ 一ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 花ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ

とツツりツツとツツ也ツツ 一ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ 花ツツのツツちツツりツツとツツ也ツツ



正。又海中に松正は松とてあやうしよはあれ  
 松正を神とせんは松遠のまういふ也。八百  
 舎六八字のどし。一海はつらたのりか  
 花も恨争。方土。揚。井。地。を。り。め。し。時。の  
 るふ。上。者。碧。落。下。者。黄。泉。と。ん。く。ど。り。  
 う。ち。く。と。あ。ひ。ね。う。り。波。の。こ。ゆ。り。来。れ。松。や  
 正。と。ら。れ。り。一。ち。う。け。の。と。れ。花。の  
 ぬ。く。こ。と。お。り。た。う。の。ゆ。り。ん。也。  
 う。ち。松。や。海。松。と。な。み。の。り。也。  
 う。ち。の。り。ん。と。な。み。の。り。也。

ぐりも。佐。り。り。て。深。く。と。と。也。  
 一。う。り。へ。ん。の。り。ん。也。  
 一。う。り。不。地。也。一。う。の。女。房。ま。あ。り。ん  
 上。の。女。房。と。八。曲。侍。掌。侍。等。也。そ。の。た。ち。あ。り。ん  
 花。文。選。の。馬。籠。松。と。う。ち。う。ち。ひ。ね。と。い。ふ。ん  
 ゆ。り。も。松。正。と。い。ふ。が。た。と。う。ち。ひ。ね。と。い。ふ。ん  
 ち。お。松。と。い。ふ。た。と。う。ち。ひ。ね。の。松。と。い。ふ。ん  
 だ。と。う。ち。ひ。ね。と。い。ふ。ん。中。の。松。と。い。ふ。ん。の。り。

しむとみろゆ也 略之 一 髪をいふはむし也

うの又後 昇 回後より乃あするまの云辭

と云と河海はあるまをよや 一勅後よの系

ちするは内なるの色也 一 髪の色を 昇 舞ハ舞

似れを 右院ありしまをいふも せられ 花也

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色

一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色 一 髪の色





ことろく也

一 子孫をたぐも也

一 内なるはうぶをしまひ内子誕生の時ハ父内門

よりうぶやーちひのさし解多之

一 着下 一人の衣はつろくけちめをて 河 四位は系み位六

位 緑袍也ま

一 一しらのさりにほし

着美の法男はたは出てたどのうまろりのさ

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 浦崎のみがは自意也のまを形たは持多ふ

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

一 一ちまはちま

揚座水邊  
曲い糸餅也

一うごごけ時の奇ハけ物  
一奇ハけ物  
一ウチモミク  
一ヒメモミ

のりよとよまふりりのこと世鴨のことよまを  
つらりの子鴨乃も也

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

八十枚外櫛のさほ卯杖と同之年中此也  
とつた杖を用行年中終るよま也

一内又内室  
侍の也

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの  
一うごごけの

一のちのち八月はのちのちのち也

一のちのち 法の所と用はけのち也

一のちのちま 好のちのち也まのちのち也

一のちのちまひのちのち 好まのちのち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也

一のちのちのちのちのちのちのち 極のち也



かののりこのまは、桐山の天子と輔佐な  
 るる也、深成のつあふる号とえりしう  
 ねやまの所らあは、そのおたる也  
 一 冠者 元服する人 も 也 う 也  
 と書くる ま 也  
 一 か 或麻 む ちりく し 一 ま ちり も ちり も ちり も ちり も 也  
 一 さ ころ ひ 也  
 一 ま ころ ひ 也  
 一 か ぬ も 也  
 一 か ぬ も 也  
 一 か ぬ も 也

一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也

一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也  
 一 か ら も も も も も 也

九  
 六  
 十



所獲

一 ちやーくもさーあふ

ひいあてあつてうらまて。実よ不慮也。されら

一 こと也 一 くらんさみ 黒汗衣

女房 服者の志也 一 くらんさみは後 龍

靴色黄色也。服者志之くらんさみ也

一 くらんさみのうわ 皮のつらくらんさみ也

一 くらんさみ 衣袋さくらんさみ。黒い実のくらんさみ

と也。源の偽まじりくらんさみ也

一 くらんさみ車 服者車也。板車もくらんさみ也

一 くらんさみはまき 黒方蜜まきの焼地の色也

一 除名とてこれと流罪ハいふくらんさみ除名

とみしうづらむとてくらんさみ除名と云ふ也

出ぬらむとてこれと云ふくらんさみ除名と云ふ也

て無位の人ならむと云ふ流罪も除名と云ふ

よりらて。無位の正家と云ふくらんさみ配流の人

と必ちん除名する也。除名くらんさみ流罪也

られぬらむと云ふ。それハ罪の物なりと云ふ也。流罪

の除名ハ。右近の例と用ふる也。若くは高野の

行年。同云且もこれと云ふて云也と云ふ

一 くらんさみはまき 三密六密の行は也

一車とくさるる 牛とて一輪とあらまき也  
一うねとておきとらるるのさかたにれんこ 柳お中  
一輪香壺おとらるるのたれさのさかたにれんこ  
とひつうのたれさのたれさのたれさのたれさのたれさ  
一うねとておきとらるるのさかたにれんこ 柳お中  
一輪香壺おとらるるのたれさのたれさのたれさのたれさのたれさ  
とひつうのたれさのたれさのたれさのたれさのたれさ

はくちんぐー 一うねとておきとらるるのさかたにれんこ  
めろ人 金光御記曰 獨接而出成仏正覺者  
一經功成名遂而身退者天之道也  
一うねとておきとらるるのさかたにれんこ 柳お中  
一輪香壺おとらるるのたれさのたれさのたれさのたれさのたれさ  
とひつうのたれさのたれさのたれさのたれさのたれさ



舟のりありき時文内静典藥官人あやみ献  
 ぶ又内侍系をとるに下は時をまを  
 かの肩よりつりたの賜へられてこの徳を新  
 へのひて各群奉すも也。後令續と云ふも  
 を巡らしてひくす也。二幕つらひられ海  
 びくこと。近江を我りまゝにひらけり  
 のりてきてこの浦はまゝとてまづれ  
 一くろごある也。後ちかんと黒木はどけ  
 来と云也。一くろご人の忠告。地  
 四年如野行幸は時器人の忠告は後春と

傳言て短一校中まへもまゝなり。師の心也  
 くらりかまをれすも。世人は濁れ独  
 衆人皆醉我独醒。一くろご人。吾人  
 上より是穴を流の也。らんろ。煮衣香  
 くれえろ内。一くろごの内は一物  
 内なるものも何れもも也。弄  
 一くろご人。国史云。永和七年四月八日  
 灯大法師位静安於法凉殿。始行灌  
 古天皇十四年。始每寺四月八日設  
 一くろごちどやみは海して茶師ちど

ちり居るのちりおほくもさう

一ちりしんごつて氏 撫と罪と成兼る河也罪

とちり心也源氏とバ律またとちりすさうて

とちりたとと後梅と居ん致

一ちりすれ 今兼山城必愛宕郡之内小笠原

ハ上か美を也也。榮柄下下法也。寛仁二年

十月廿五日陣定あつて官符とあされからぬ

比地波より守のほさうらうらと云いびや也

空海那もよふやぬ松のまを。されとまよあつ

一ちりちりあのみはと 知は源経と腕の肘公黄

ちりちりて。下暮のちり止るの服とさる也

一ちりちり 九途 文中 文中とちりちりことと

一ちりちり 一ちりちりちり 服者

衛戸とて板をと切さひてかりますあり。衛戸

のちりハ日月の光もあつて守と也。礼記回喪

一篇寝苦枕塊哀親之也玉也

一ちりちりちりハ ちりちりちりちりちりちり

とちりちりちり立田川よりちりちりちりちり

一ちりちりちり 雲惟王宅 仙人ちりちりちり

中よまうらちりちり仙人ちりちりちり

中よまうらちりちり仙人ちりちりちり

一 ちりつらうそ 勅定<sup>チカウキョウ</sup>こ也。独<sup>トコ</sup>ぢちくも回<sup>マヒ</sup>ん也  
 一 ちあしひららの亦<sup>ナ</sup>乃<sup>ノ</sup>其<sup>ソノ</sup>のちこれらもと  
 一 ちらんちや。奉<sup>ホウ</sup>投<sup>トウ</sup>也。らんずとあつちと  
 一 ちこのむらひは 経<sup>キョウ</sup>信<sup>シン</sup>する人のち也。面<sup>オモ</sup>目<sup>メ</sup>志<sup>シ</sup>  
 一 敬<sup>ケイ</sup>嚴<sup>エン</sup>為人<sup>ニヒト</sup>所<sup>ニ</sup>喜<sup>ニ</sup>見<sup>ル</sup>法<sup>ハフ</sup>花<sup>ハナ</sup>経<sup>キョウ</sup>法<sup>ハフ</sup>教<sup>キョウ</sup>功<sup>ク</sup>徳<sup>トク</sup>也  
 一 ちそち原<sup>ハラ</sup>達<sup>ダツ</sup> 古今集の作<sup>サク</sup>考<sup>カウ</sup>もとくそち  
 一 ちち木<sup>キ</sup>ちの死<sup>シ</sup>灰<sup>ハイ</sup> 槁<sup>カウ</sup>  
 一 木<sup>キ</sup>枯<sup>カ</sup>るん也。枯<sup>カ</sup>る木<sup>キ</sup>れとく心<sup>ココロ</sup>ちてん心<sup>シン</sup>  
 一 ちち官<sup>カン</sup>位<sup>イ</sup>の教<sup>キョウ</sup>心<sup>シン</sup>の妨<sup>サマヤ</sup>とこ也  
 一 ち雲<sup>クモ</sup>のもろた 横<sup>ヨコ</sup>川<sup>カハ</sup>の雲<sup>クモ</sup>のふ山<sup>ヤマ</sup>ちれた。びちり

一 ちち山<sup>ヤマ</sup>吹<sup>フキ</sup>とと又<sup>マタ</sup>ちひちち也  
 源氏<sup>ゲンジ</sup>凡<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>来<sup>キ</sup>年<sup>ネン</sup>五<sup>ニ</sup>

一 ちんちまき 止<sup>ト</sup>るこの儀<sup>ノ</sup>也。上<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>體<sup>ノ</sup>也。人<sup>ノ</sup>也  
 一 ち心<sup>ココロ</sup>八<sup>ハチ</sup>位<sup>イ</sup>ち人のちとちとれぬ也。れぬ  
 一 ちちちちちち 一<sup>ヒト</sup>揚<sup>ホウ</sup>妻<sup>メ</sup>妃<sup>ヒ</sup> 長<sup>ナガ</sup>恨<sup>ハミ</sup>哥<sup>カ</sup>也  
 一 ちたちちち ちハ<sup>ハ</sup>潮<sup>シホ</sup>也 枝<sup>エ</sup>浪<sup>ナミ</sup> 碇<sup>イカリ</sup>也  
 一 ちちちち 和<sup>ワ</sup>国<sup>コク</sup>のち也。日<sup>ニッ</sup>本<sup>ポン</sup>お人のち也。ち  
 一 ちちちち 仲<sup>ナカ</sup>立<sup>タチ</sup>のち孝<sup>コウ</sup>天<sup>テン</sup>皇<sup>スミ</sup>とねしちちちち。ちちちち  
 一 ちちちち 仲<sup>ナカ</sup>立<sup>タチ</sup>のち孝<sup>コウ</sup>天<sup>テン</sup>皇<sup>スミ</sup>とねしちちちち。ちちちち

凡中

五十六

に「こらり」とも藤入の「山びとの山ついで」とも  
也。夕方の早也。松子のまはりけり也。

一やと〜 山ついで也やと〜うらら也

一やと やと〜声也 一や〜もとやと〜声也

一や〜もんやむ止也又病也 山より〜

一や〜うららと〜 山ついでと〜

一や〜うららのと〜ける人 楊名妙之のちよのつ

也。新撰古今雜中。源氏物語揚名妙之のちよ

と忠告附はるるひるらて〜 山ついでと〜

山ついで

〜 忠告附はるるひるらて〜 山ついでと〜

着らると秘するも〜

一山ついでと〜 山ついでと〜

一山のついで 山のついでと〜

一山ついでと〜 山ついでと〜

一山ついでと〜 山ついでと〜

一や〜と〜 山ついでと〜

山ついで

山ついで

一やふい 三月 皇の日はやうくしてふもひは  
 とむらひ三月の日はやうくしてふもひは  
 づれとひ敷也 一山かき 妻山吹のまね  
 面て美よ妻紅也。花山吹の面て鳥杉系妻  
 舞也 一山のまめとやうく  
 琴のまへとまて鶴雲のうらぐら池の真  
 とらうやうあり一山かきまうとわらう  
 らまへ尼意のうらぐら九乱也  
 一やうとえまてす 是はととえりまぬ也  
 一やうまらう くらひと神と地紙とす也山紙と

書ては山づと神と溪也がまハ熱也  
 一やうの物とあるやうにたもの也。又又女院い  
 づれとあるやうにたもの也。又又女院い  
 去年の九月八日又の流ぐらまをけり  
 多ひ今又女院乃流ぐらまをけり  
 少の也と 一山と 集 日本記 亦  
 産隈 万倍よまげりこころ也  
 一三月廿日あまりの程 如又た新左速太宰府  
 去安和三月廿六日也 一三月つらまはけるこの日  
 二月朔日ある上巳 世風記云三月廿九日桃水之時



日新。新造ハ新造。新皇居あり

一やちまのちと地 柳ハ面白く。裏あまし一丈

ハ柳花と云ん也 一やちま一丈ふハあまし

れこの柳をいさくちさるやちま一丈と云也

一やちま一丈 一やちま一丈也

一やちま一丈 和琴の名勿論也。さればまてハ

只和国のことと云るも又まてしてしるれ和琴

ハ徳六まちあり 一やちま一丈と云ん也

大指能云 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

一やちま一丈 一やちま一丈と云ん也

襷。階。後。様。欄。文。藝。摺。袍。柳。色。下。袴。白。綾。袴。合。  
大口。赤。靴。半。臂。緒。方。帯。等。各。用。付。云。云。 昇。

河の傍にさ東柱の松ありや

一柳をまがりてはけりこゝん 河揚柳を白きき

あどく時及茶花をあをさつらようきんしり

一陽成院の内帯 陽成院の内守は式部卿又貞

保親主とすを之を桃菌の式部はあまき

へり花を拾飲 一山里の衣をさきけり

来れぬま物の名あり一山乃乃まふたとんや

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

こせ者れんをらりとまのりてん

一やいそを落 逃せぬいやはん也

一山ざりのちり 山ざりのちり

一やいそを落 逃せぬいやはん也

の吹ふと柳をさきけり一山ざりのちり

名せはさきけりこの名をさきけり

名せはさきけり 一山嶽のまふくは

ういそを落 逃せぬいやはん也

ういそを落 逃せぬいやはん也

ういそを落 逃せぬいやはん也

ういそを落 逃せぬいやはん也

ういそを落 逃せぬいやはん也



用のいろへんごもあつてゐる也

一や<sup>キヨクホ</sup>らり<sup>ホ</sup>本と<sup>ホ</sup>昔や<sup>キヨクホ</sup>らり<sup>ホ</sup>いふと<sup>ホ</sup>あつた<sup>ホ</sup>いふ<sup>ホ</sup>に<sup>ホ</sup>花

と<sup>ホ</sup>わ<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>が<sup>ホ</sup>ご<sup>ホ</sup>う<sup>ホ</sup>し<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>也<sup>ホ</sup>。秋<sup>ホ</sup>生<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>う<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>を<sup>ホ</sup>。

一や<sup>キヨクホ</sup>らり<sup>ホ</sup>な<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>一<sup>ホ</sup>や<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>れ<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>。家<sup>ホ</sup>異<sup>ホ</sup>也<sup>ホ</sup>。

一や<sup>キヨクホ</sup>らり<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>本<sup>ホ</sup>。糸<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>表<sup>ホ</sup>れ<sup>ホ</sup>并<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>い<sup>ホ</sup>ふ<sup>ホ</sup>也<sup>ホ</sup>。

一や<sup>キヨクホ</sup>らり<sup>ホ</sup>ふ<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>。戒<sup>ホ</sup>を<sup>ホ</sup>破<sup>ホ</sup>る<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>い<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>れ<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>を<sup>ホ</sup>付<sup>ホ</sup>たり<sup>ホ</sup>。

一や<sup>キヨクホ</sup>らり<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>い<sup>ホ</sup>ふ<sup>ホ</sup>。涼<sup>ホ</sup>舟<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>る<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>つ<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>年<sup>ホ</sup>に<sup>ホ</sup>月<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>小<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>な<sup>ホ</sup>つ<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>多<sup>ホ</sup>く<sup>ホ</sup>。雲<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>な<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>院<sup>ホ</sup>を<sup>ホ</sup>か<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>浮<sup>ホ</sup>舟<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>葉<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>後<sup>ホ</sup>に<sup>ホ</sup>流<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>い<sup>ホ</sup>ふ<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>な<sup>ホ</sup>ら<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>と<sup>ホ</sup>い<sup>ホ</sup>ふ<sup>ホ</sup>。流<sup>ホ</sup>り<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>。

五、不審なる也

一ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。一<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>。西<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>河<sup>ホ</sup>也<sup>ホ</sup>。正<sup>ホ</sup>行<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。

一ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。一<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>。信<sup>ホ</sup>君<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。

一ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。一<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>。珠<sup>ホ</sup>進<sup>ホ</sup>日本<sup>ホ</sup>記<sup>ホ</sup>珠<sup>ホ</sup>進<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。

一ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。一<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>。ま<sup>ホ</sup>を<sup>ホ</sup>ち<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>。ま<sup>ホ</sup>を<sup>ホ</sup>ち<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。

一ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。一<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>。又<sup>ホ</sup>い<sup>ホ</sup>ふ<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>も<sup>ホ</sup>。一<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>ん<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>は<sup>ホ</sup>。内<sup>ホ</sup>門<sup>ホ</sup>支<sup>ホ</sup>衣<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>房<sup>ホ</sup>へ<sup>ホ</sup>び<sup>ホ</sup>く<sup>ホ</sup>ま<sup>ホ</sup>。

九代中  
三十一

せほしきものもふりてはなはれぬ  
ゆる也  
一まじりては曲る也

あべ  
一まじりてはまらぬ也

い色もほろにまきみみも  
一まじりては中將もたは氏

い時の中おきげ地落は  
一まじりてはとを去はるた

いんちとくひり  
一まじりてはあぢちひきた

いんち又空帳も  
一まじりてはけはるをさり

いんち  
一まじりては真帆もまほほ

いんち  
一まじりては真帆もまほほ

いんち 真名也  
一まじりてはやくのん也

いんち 真人あがれ  
一まじりては玄切也

いんち 客人也  
一まじりては我を丸し

いんち  
一まじりては枕也

いんち  
一まじりては燈の手も

いんち  
一まじりては陰陽師

いんち  
一まじりては八代

いんち  
一まじりては厭術

いんち  
一まじりては白ひ

九代中  
三十二

いんち  
一まじりては白ひ

いんち  
一まじりては白ひ

いんち  
一まじりては白ひ

いんち  
一まじりては白ひ

いんち  
一まじりては白ひ

此の四の邊よりあらはれはるるは

一まじくもふざくもむせ一まじくもふざくもむせ

あがろえんじくもむせ 一松のちむせあてり

真松 軟歳 寒てりり 寒あまも 稠さるは乃

性のあるちむせあてり 一まじくもふざくもむせ

あてりてつるもの所用をつらうもむせあてり

とらうもむせあてり 一まじくもふざくもむせ

紫よに母もまぬ 松母や一まじくもふざくもむせ

眼と一糸をきりて 除胎の後もむせあてり

三のまじくもふざくもむせ

一まじくもふざくもむせ

入るる也

一まじくもふざくもむせ

一まじくもふざくもむせ

遺愛寺 鐘教 柝 聽 白 天

一まじくもふざくもむせ

一まじくもふざくもむせ

一まじくもふざくもむせ

一まじくもふざくもむせ

一 ちくちくはくくらしえ 定歌に説きつては伏せ

一 睦みくもす也 摩訶那波 日本記

一 ちろくろくはくくらしえ 日本記

一 けれくらしえ也 日本記

一 ちくちくもす也 大史監が御也

一 ちくちくもす也 一 ちくちくもす也

一 西文抄云 諸君曰 舞人起 唱百 義系 我

皇 延祚 億仙 齡 万 嘉 元正 慶 岸 年 光 隆

伊 馬 手 渡 海 三 船 掛 之 介 系 一 方 義 系 不 入 入 八 万 の 詩 也 ぞ れ と 漢 音 ぞ ぞ へ び へ ぬ ぬ と れ あり ぬ ぬ

一 ちくちくもす也 諸君曰 舞人のうちを海よのちくちく

ちくちくはくくらしえ 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

一 ちくちくもす也 日本記

御符ミタマシありぬ也

一まづりのくろひまふ 法ホウを

納ノウ免メと給タマうとのほまのくろひ也

一まづりと竹タケ葉ハとそり 律リツ未ミ有ユ十ジュウ歳サイ早サウ奇キ

を細ホソ也 一まづりつとほしく 源ゲン氏シは

山ヤマ見ミ石イシのうんそくも 八ハチ松マツ津ツの守ミヤコ護ゴ一イツ法ホウ也

えりやと給タマりて 後ノチ上ノリよの妻ユメ法ホウ也

一まづりびるまをれ 仁ニ和ワるのなまは 大ダイ日ニチ也 摩マ訶カ

盧ロ遮シャ那ナと 大ダイ日ニチ也 行キョウ人ニンの眼ガンが 此ココも ち

一まづりつとまう 行キョウ人ニンの眼ガンが 此ココも ち

ゆとりのほまう 一イツ日ニチ也 づとまう 一イツ日ニチ也

一まづりやのんえと 一イツ松マツ津ツと 山ヤマ 松マツのやう

ふみぬ也 一イツ松マツ津ツのあまれ 衣イのちと

いふりまてかみゆと づとまうと づとまうと づとまうと

今イマ文モンぬまうと づとまうと づとまうと づとまうと

一まづりやのんえと 一イツ松マツ津ツと 山ヤマ 松マツのやう

多タ少ショ王オウ 白ハク氏シ文モン集シュウ 一イツ松マツ津ツのあまれ 衣イのちと

麩フ食シキ松マツ葉ハ不フ削セツ 奇キ而ニシテ 七シチ十ジュウ余ヨ年ネンすく 八ハチ日ニチ也

一まづりつとまうと づとまうと づとまうと づとまうと

全ゼン心シンんちん也 一まづりつとまうと づとまうと づとまうと

まづりつとまうと づとまうと づとまうと づとまうと

九ク文モン集シュウ

九ク文モン集シュウ



一けりさき ケサキ 丸也

一けりさき ケサキ 下宿也

一けりさき、ケサキ 陽具也

一けりさき ケサキ 基のさき也

一けりさき ケサキ 魚也

一けりさき ケサキ ちりさきと云れ

一けりさき

一けりさき ケサキ 坑 跡 也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

一けりさき ケサキ 一うもあき ケサキ 一と也

川中

つゞくころとらぬべし。又これ内地長うあるころ也  
けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也  
けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

の

の

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也

けちるんちりぬが鑑あつちりぬがヒカゲ也



略何ういれはのそとへ略以多はたを云々の土  
な花漆は漆なるを 一けやきも漆なるを  
あ 花の奇の男の女と友なるひてあれたを  
てあると女のおやまつら人のまじりと。なとを  
つづくとくくくくくくくくくくくくくくく  
といやきくくくくくくくくくくくくくくく  
年へいけるはあのとあとの助音くくくくく  
は物漆古をとりてあはたてくくくくくく  
もも兵門くくくくくくくくくくくくくく  
らとくくくくくくくくくくくくくくく

原花の徳源氏の家はくくくくくくくくくく  
の作乃所とくくくくくくくくくくくく  
一けいさ 樂殿くくくくくくくくくくく  
甚早薩 助又多終款くくくくくくく  
一けいあくくくくくくくくくくくくく  
としまにありくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
一原中納言 甚中納言のくくくくくくく  
又推本くくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく





中より下りて文正七年と云ふは、カウキ講頭する也。

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

二 日、チヤウキヤ知奇、シヤク管経あり。

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

二 日、チヤウキヤ知奇、シヤク管経あり。

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

二 日、チヤウキヤ知奇、シヤク管経あり。

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 弟のまへにあふれやけり、シヤク又天曆二年四月十

一 舟成王<sup>フネナリ</sup>之<sup>ノ</sup>叔父<sup>チチ</sup>也<sup>ナリ</sup>。於<sup>オ</sup>天<sup>アメ</sup>下<sup>ノ</sup>亦<sup>モ</sup>不<sup>レ</sup>賤<sup>シ</sup>矣<sup>ナリ</sup>。大本イ長

一 文集<sup>モノ</sup> 白<sup>シロ</sup>赤<sup>アカ</sup>天<sup>アメ</sup>の詩<sup>シ</sup>賦<sup>フ</sup>とありけり也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>。七<sup>ナナ</sup>十<sup>ジュウ</sup>二<sup>ニ</sup>

奏<sup>ソウ</sup>ありと也<sup>ナリ</sup>。慶<sup>ケイ</sup>集<sup>シツ</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一 少<sup>オホ</sup>人のつとこ 勅<sup>トウ</sup>をまゐりて 祿<sup>ロク</sup>唯<sup>タリ</sup>作<sup>ス</sup>御<sup>ミコ</sup>

手<sup>テ</sup>奈<sup>ナ</sup>良<sup>ラ</sup>之<sup>ノ</sup>方<sup>カタ</sup>為<sup>シ</sup>礼<sup>レ</sup>書<sup>シヨ</sup>司<sup>シ</sup>。則<sup>ナラバ</sup>取<sup>リ</sup>材<sup>サイ</sup>女<sup>メ</sup>置<sup>キ</sup>之<sup>ヲ</sup>

ハ女<sup>メ</sup>官<sup>クワン</sup>の也<sup>ナリ</sup>。和<sup>ワ</sup>琴<sup>シン</sup>とつとことらるる也<sup>ナリ</sup>。和<sup>ワ</sup>琴<sup>シン</sup>と

とやえ文<sup>モン</sup>の流<sup>リウ</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ也<sup>ナリ</sup>。くらめハ字<sup>ジ</sup>多<sup>タ</sup>の流<sup>リウ</sup>

よつがひとらわ琴<sup>シン</sup>也<sup>ナリ</sup> 一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふ 琴<sup>シン</sup>

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ

一<sup>イツ</sup>つとこと云<sup>イハ</sup>ふと云<sup>イハ</sup>ふの流<sup>リウ</sup>ありて琴<sup>シン</sup>と云<sup>イハ</sup>ふ



後を思ひていふ世にふりかへりては  
のまじりたることなきものなりと笑止と也

一 ありめさむ 古風ありんちやあやも也

一 ありささぬのあつれ 花梨れなまふりつり文

一 ありをくまふとぬと也 一 あり竹よわさうろ 物ま

夏中のうら風を月影あやせもろわがあれな也

一 ありふたふも也 音律ハ音声の潤子も付て

吹つてささる也 一 あり日 ありさうももむ

一 ありんねり 浮線後

唐後也 一 ありす 転熟云親と

みまよわさうろや 移りて 舞はるゝてゆく 取

萬事よりいそひよりいそひをさす乃ほさして

中へくくも入ておびせさすつさすくも

六乃御後のしうらも也 ころかの物後すも

一 ありそまわりも也 一 あり歌のそりも也

一 ありあり 一 ありさされ 中かたも

白とまをの中をうらごころふ時をぬぐ 身のつ

く入るとおれと云ん也 一 ありさう 武勇不道と

かきとる 一 あり川の 浮舟のんも

らぬを我むりれ境と云ん也





あつた也

一くさうのん 穀倉院

かまあなのもや

一ちあて きんりや

一ちり まうごうちりまうちりまうちりまうちり

ごうと楊玄也

一ごうり 玄撰也

一ごう中は けあつた中も又就中ちりまうちり

たごちりあちり中まごちりまう 巨室也

の所也

一ちりまうちりまうちりまうちり

一ごちり 後連師 自氏女のある也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

一ごちり人のあつた也

暑からむと云う地也 一九日のえん 車馬宴  
よみ天皇南庭より出立して内弁お年暮あ  
り文人博士よりて歌をなむしめて各観  
の字をさうして侍を伴て海をさるるあり

一 加藤のうも 中納言をえたるなりと云

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととせもよ 博物志云 堯造園其名

一 こととあものいそく 女房のおま末又月日あり

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也

一 こととあつちんばいしとくくおろし切也





とふ名目も男<sup>オノ</sup>強<sup>カチ</sup>奇<sup>カキ</sup>此<sup>コノ</sup>後<sup>ノチ</sup>三<sup>サン</sup>前<sup>ゼン</sup>より前の後<sup>ノチ</sup>あり  
るをよりそれを花<sup>ハナ</sup>室<sup>ムロ</sup>は花<sup>ハナ</sup>を<sup>ヲ</sup>一<sup>ヒト</sup>つら也  
一<sup>ヒト</sup>よりた<sup>タ</sup>子<sup>コ</sup>ありねと<sup>ト</sup>うた<sup>ウ</sup>し<sup>シ</sup>きた<sup>キ</sup>の<sup>ノ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う  
さて<sup>サ</sup>ね<sup>ネ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や

一<sup>ヒト</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>へ<sup>ヘ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
は<sup>ハ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
下<sup>カ</sup>に<sup>ニ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
一<sup>ヒト</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>

一<sup>ヒト</sup>は<sup>ハ</sup>後<sup>ノチ</sup>の<sup>ノ</sup>日<sup>ヒ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>へ<sup>ヘ</sup>の<sup>ノ</sup>日<sup>ヒ</sup>也<sup>ヤ</sup>今<sup>イマ</sup>果<sup>カ</sup>實<sup>ジ</sup>の<sup>ノ</sup>女<sup>メ</sup>院<sup>イン</sup>

ト定<sup>サ</sup>ま<sup>マ</sup>そ<sup>ソ</sup>後<sup>ノチ</sup>東<sup>トウ</sup>川<sup>ケン</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
膳<sup>テン</sup>識<sup>シ</sup>或<sup>シ</sup>左<sup>サ</sup>近<sup>キン</sup>初<sup>シュ</sup>ち<sup>チ</sup>と<sup>ト</sup>を<sup>ヲ</sup>恐<sup>コ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
紫<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
此<sup>コノ</sup>日<sup>ヒ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>へ<sup>ヘ</sup>の<sup>ノ</sup>日<sup>ヒ</sup>也<sup>ヤ</sup>今<sup>イマ</sup>果<sup>カ</sup>實<sup>ジ</sup>の<sup>ノ</sup>女<sup>メ</sup>院<sup>イン</sup>  
毎<sup>タイ</sup>年<sup>ネン</sup>の<sup>ノ</sup>日<sup>ヒ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>へ<sup>ヘ</sup>の<sup>ノ</sup>日<sup>ヒ</sup>也<sup>ヤ</sup>今<sup>イマ</sup>果<sup>カ</sup>實<sup>ジ</sup>の<sup>ノ</sup>女<sup>メ</sup>院<sup>イン</sup>  
一<sup>ヒト</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
一<sup>ヒト</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>や<sup>ヤ</sup>

わらわりの花 之秋 晩之候 五夜 將明之天 別 候

依之情 虫声 切之恨 遭逢 斯時 と ころに

泣く り び そ ころ ん や 也 一 ぶ ん の ま ず や う 護

摩五壇御 修法 金剛 不 動 大威 徳

一 み くら ん の 日 法華 經 也

一 こ ま こ ろ と 狗 取 を 細 丸 を 細 分 ち と り 大

一 い の づ ぞ 花 蟄 居 を る 人 の ほ へ と あ り ら 球 に

一 と の ま と い り 也 一 こ こ ち り あ り 也

一 こ ち り い は 回 り 也 一 こ り す ま こ り ぬ り 也

一 い つ ら と こ 世 を こ こ よ ハ 仙 境 と り り ま 林 の う ら こ

一 と ち れ よ う ら と て き せ き ら り 居 ら お 國 の せ ま か

一 れ ら お い た る れ が く ら も し り 也

一 ん あ の そ ひ く の み た ん 琴 に ひ こ と り 也

一 れ び は ま は は こ も す べ こ さ が あ る 事 に さ

一 と の 舞 れ 也 一 胡 の ち あ は り り 也

一 女 花 毛 昭 君 ハ 胡 國 の 王 は 嫁 を し ら は 何 と も こ

一 と ち れ ら も あ り し く ち ら 子 ふ と よ 子 あ り は

一 我 心 も ち と や れ 遠 國 ハ ち と こ り バ つ ら り

一 の も を さ り ん と づ れ の あ ま り に い ま し も ち あ る 事

あれど、おにやまふくごのあふつて。若れもを  
あひるずりくまふ也 一 二のあふくまひりつあん

やし 通満法師 居位権大國をいひるれ

一 三じ 綱字也くさびれくも也

一 三のらうもくのらう 高藤紙也

一 三のらうもく 本むと樹神也。これがかくもあふ

一 三のらうもく 記さういひ

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

一 三のらうもく 侍渡り母也。

也。正子内親王後合のり。後拾遺正子内親王は  
合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

一の雨をらすす。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

延喜式天曆の聖体と云ふ。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

曆の所。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

らも。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

樓閣。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

東の。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

建立。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

小名。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

は。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

の。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

と。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

を。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。

は。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。合。正子内親王のり。



と云也略之

了くしまへ也

一故大納言ナリの事

大鏡云。三事院の時。故ナリなる事と云ふ。一

ける。ゆゑ。この大納言の事。故ナリなる事と云ふ。

此父大納言を勝左政大納言と云ふ。その名は。そ

うと云ふ。一ナリの事と云ふ。史記

明君知臣明父知子。一ナリの事と云ふ。源の

まづ。この事。故ナリなる事と云ふ。惟光がむすめ。ある也。時

向。源氏。思はる。この事。一。勅。可。珍。む。事。ある。事

人。也。是。は。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

一。ま。づ。の。事。一。源。氏。の。事。と。云。ふ。也。

源氏

源氏

一 胡地の巴の...をばじる...  
 地梁原之并不得見 白氏文集 胡地書子虛  
 奔指漢攻胡之時漢人止胡国不得歸漢  
 軍敗之故也 後又復漢攻胡之時止胡之人欲攻  
 漢也 以時奔胡妻而漢不入彼人刺圖之  
 敵必住人也 仍兩國之互殺之意叶物語  
 一 一... 又師...  
 一 一... 萬葉  
 一 一... 萬葉

一 一... 呼...  
 一 一... 日本記  
 一 一... 勅  
 一 一... 勅  
 一 一... 勅

ほこの聖人あれと時うてさういふものを  
くさやぢ女あつとよまふ

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

ほこの聖人あれと時うてさういふものを  
くさやぢ女あつとよまふ

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一このあつとよまふとよまふしりれとせん  
さういふ也

一 このころは...  
 一 極楽寺 深草在之  
 一 心やま... 約...  
 一 遣使... 賀...

一 素春... 遣使司... 東遊を...  
 一 この秋... 叶... 秋...  
 一 ... 小松... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...

一 ... 葉... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...

一 ... 葉... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...  
 一 ... 葉... 葉... 葉...

ふりぬくは六の破管ともや六の破木桶の破とも  
ゆ也き

一ころ一木七木ぞちり結  
け系上れやられ本也。はは系よ。徳氏よ七ぞちりけり

うももいば寒あそ八十一年ととるとみへり  
一箇もひもく、ゆめとちりけり

一ゆめりてあそちりけり人ハ 孝経云小取孝少得  
福大取孝大得福 孝経云王徳要道篇

一ふもいどり 殺生偷盗邪淫妄語飲酒  
一ふ十ちの山 翻經 太平の山なるればは山平一  
一は山平ちあ也 一この山くれば平一 本下

よもゆそんたり。父のたふそんへん船後とそんは  
よもゆそんたり。父のたふそんへん船後とそんは

一こころちりけり。これ枝とちりけり。ゆめり  
は也ちりけり。枝とちりけり。枝とちりけり。枝とちりけり。

の律とハ。木本とこそそり  
一この山とちりけり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。

ゆも木本のゆもゆめり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。  
一琴れとちりけり。後木本れれゆめり。ゆめり。ゆめり。

まぬ今とちりけり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。  
とて二人をちりけり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。ゆめり。

死て後よ、<sup>ハカサ</sup>伯牙のあやうなうら後我契うと<sup>キ</sup>写し知  
者もすうぐれをびくろそやこやこ也<sup>カ</sup>きれ  
と<sup>カ</sup>伯牙<sup>カ</sup>流と流とハウ<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>つ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>啼<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>信  
難<sup>カ</sup>なる<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>身<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>柏<sup>カ</sup>木<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>云  
一これ<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>とも<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>べ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup> 落<sup>カ</sup>葉<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>意<sup>カ</sup>  
と<sup>カ</sup>川<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>べ<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>也  
一これ<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>南<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>伐<sup>カ</sup>柏<sup>カ</sup>木<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>  
め<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>信<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>第<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
一こ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>文<sup>カ</sup> 三<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>秋<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>新<sup>カ</sup>月<sup>カ</sup>  
色<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>里<sup>カ</sup>外<sup>カ</sup>故<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup> 業<sup>カ</sup>障<sup>カ</sup>

一こ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>柳<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>  
一こ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>ど<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>身<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>  
つ<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>た<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>云  
る<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>天<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>  
九<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>香<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 三<sup>カ</sup>十<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>毛<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>  
知<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 六<sup>カ</sup>祖<sup>カ</sup>宋<sup>カ</sup>銘<sup>カ</sup>幼<sup>カ</sup>香<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>す<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>内<sup>カ</sup>下<sup>カ</sup>意<sup>カ</sup>意<sup>カ</sup>  
一<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup>聖<sup>カ</sup>法<sup>カ</sup>た<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>同<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>  
の<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>也<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>今<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>え  
あ<sup>カ</sup>合<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup> 一<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>松<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>た<sup>カ</sup>身<sup>カ</sup>舞  
の<sup>カ</sup>菩<sup>カ</sup>薩<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>え 一<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>ね<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>

琵琶<sup>リ</sup>又<sup>リ</sup>撥<sup>カ</sup>お<sup>リ</sup>し<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>隠<sup>レ</sup>れ<sup>ル</sup>云<sup>ハ</sup>面<sup>ハ</sup>河<sup>ハ</sup>也<sup>ナリ</sup>

李<sup>リ</sup>嬌<sup>カウ</sup>琵琶<sup>リ</sup>詩<sup>シ</sup>云<sup>ハ</sup>物<sup>ト</sup>月<sup>ハ</sup>夕<sup>ニ</sup>上<sup>リ</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>て<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ら<sup>ズ</sup>き<sup>リ</sup>我<sup>ハ</sup>思<sup>フ</sup>い<sup>ハ</sup>そ<sup>ト</sup>あ<sup>リ</sup>ん

と<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ら<sup>ズ</sup>あ<sup>リ</sup>た<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>レ</sup>を<sup>ケ</sup>け<sup>テ</sup>さ<sup>ウ</sup>死<sup>ス</sup>ん<sup>ト</sup>あ<sup>リ</sup>ま

た<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>り<sup>ト</sup>我<sup>ハ</sup>心<sup>ハ</sup>を<sup>サ</sup>そ<sup>ク</sup>の<sup>路</sup>也<sup>者</sup>の<sup>山</sup>よ<sup>公</sup>某<sup>ノ</sup>

の<sup>よ</sup>か<sup>よ</sup>よ<sup>と</sup>あ<sup>リ</sup>る<sup>茶</sup>の<sup>ゆ</sup>し<sup>さ</sup>い<sup>ふ</sup>も<sup>と</sup>也<sup>ナリ</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ら<sup>ズ</sup>也<sup>ナリ</sup> 一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

一<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>さ<sup>い</sup>も<sup>れ</sup>れ<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>来<sup>リ</sup>流<sup>リ</sup>蒸<sup>リ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>あ</sup>る<sup>れ</sup>を<sup>ん</sup>

墓とらるる物の残仙の墓とらるる也

一とらねつかりありしよふ合れ合物也

一このまゝさんちへ寄るの道は遠多へり中地

ぬべー 一ちや 一こののく いはの陸子

一とらちちち也 一ぶつもんじん 権記行成

長徳六年十月九日 於山階寺 新見牛歌

梅檀赤 一この二ハハを 合也い

一ひまのく 一具也 一とらちちち 一とらちちち

一とらちちち 一とらちちち 一とらちちち

ぬ花とらるる也 一とらちちち 一とらちちち

一とらちちち 一とらちちち 一とらちちち

んと也 一とらちちち 一とらちちち

江 一とらちちち 一とらちちち

一とらちちち 一とらちちち 一とらちちち

色 一とらちちち 一とらちちち

一とらちちち 一とらちちち 一とらちちち

後 一とらちちち 一とらちちち

一とらちちち 一とらちちち 一とらちちち

不承中

〇三



とつり

一はひのつるひがごとつり

又燒物の惣名也。但るひがうて。和衣被者

一はひのつる 蒲萄ハビ系は也。比のつるは也

一はひのつる 多へるハ舞のそそよあつ。流曲のそそ

一はひのつる 海波のそそよ流るるも

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 一はひのつる一はひのつる

白樂天がは別へた造して。日月晦日は夷陵と

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

醉悲纏涙春盡裏吟若支願曉燈前

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

かまのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

てはれと。比名今。の華ハ。冠の門もつる

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

れよはるるも。比のつるは也。比のつる

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

一はひのつる 冠のそそ也。是服の人夫冠

中將公（中將公）人亦也（亦也）石神系（石神系）末子（末子）と云ふ也  
 一 是はもとより礼也（一ははもを 礼也）  
 一 是はもとより怒也（一ははもを 怒也）  
 一 是はもとより笑也（一ははもを 笑也）

一 是はもとより作也（一ははもを 作也）  
 一 是はもとより牛車也（一ははもを 牛車也）  
 一 是はもとより温明殿也（一ははもを 温明殿也）  
 一 是はもとより後凉殿也（一ははもを 後凉殿也）  
 一 是はもとより内也（一ははもを 内也）  
 一 是はもとより温明殿也（一ははもを 温明殿也）  
 一 是はもとより後凉殿也（一ははもを 後凉殿也）  
 一 是はもとより内也（一ははもを 内也）

也。東の空陽門（東の空陽門）の中ふる。後凉殿は西の温明  
 門の内よありし。卷の御よ。うらうらんとし。よりや  
 る。と。あ。い。ひ。あ。ま。ま。の。ぶ。り。し。と。か。ま。う。つ。さ。せ  
 る。と。う。つ。り。ひ。は。り。す。と。せ。し。ら。う。延。長。式。ま。ま。ん  
 及親兵（及親兵）後凉殿の御よ。うらうらんとし。よりや  
 る。と。あ。い。ひ。あ。ま。ま。の。ぶ。り。し。と。か。ま。う。つ。さ。せ  
 外也。内門（外也。内門）といふ。は。中。此。室。の。門。と。云。ふ。也。と。親（親）範（範）説（説）  
 云。ふ。つ。ら。れ。車。う。ら。う。ら。の。と。て。と。これ。あ。ら。う。と。車  
 云。ふ。た。は。痛。と。と。う。て。六。符。の。官。合。や。く。ゆ。し。ら  
 云。ふ。と。云。ふ。と。云。ふ。と。一。と。う。と。洞（洞）夜（夜）



と奴がよゝぬ也 一庭と人の世の内をま  
 のろもくちりし花 庭と人の世の中より  
 ず。院の庭と人あまの庭と人あまの庭と  
 ぬゆねさして 昇庭と人あまの庭と  
 中よりいりていりていりていりていりて  
 ことと也 庭と人あまの庭と人あまの庭と  
 上の優よとていりていりていりていりて  
 一てうりて 庭と人あまの庭と人あまの庭と  
 人あまの庭と人あまの庭と人あまの庭と  
 子なる也 一天人のあまの庭と人あまの庭と

くやねと作れぬ庭と人あまの庭と人あまの庭と  
 一てうりて 庭と人あまの庭と人あまの庭と  
 天魔の庭と人あまの庭と



